

新しい船橋市立医療センターの在り方（案）

《医療センターの使命》

地域医療支援病院として、地域の医療機関等と密接に連携し協力しながら、救急医療を主体とする急性期医療及びがん診療を中心とした高度医療を提供するため、総合診療機能を有し、医療ニーズに対応し続ける地域の中核病院として、市民の安心の確保に寄与する。

～ 市民の命と健康を守り 頼られ 魅力ある中核病院 ～

基礎調査で挙げられた現状の課題

①設備の老朽化 ⇒ 救急部門等の一部機能停止の恐れ

・新耐震基準の建物であるため、耐震性能は満たしているが、日常の医療行為を24時間365日稼働しているA館・B館の各部門（救命救急部門、ICU部門、手術部門等）においては、配管改修が実質不可能であることに起因する老朽化が確認された。

②施設の狭隘化 ⇒ 医療サービスへの対応が困難

・増築を繰り返しているため、全体面積は他病院と同等規模であるが、建物を繋ぐ動線の拡大や分散配置による管理部門の拡大により、特に病棟・外来・診療部が狭隘化している。
・外来、手術、救命救急部門において、近年に建設された病院と比較して、狭隘化している状況が確認された。

③施設機能の分散配置

・増築を繰り返しているため、手術部門、放射線部門、検査部門、管理部門等が各棟に分散配置されている。
・建物が水平増築されてきたことにより、患者、見舞客、入院患者への食事の運搬ルート、救命救急部門・手術部門からの搬送ルートが交錯し、動線が複雑化している。

④災害拠点病院としての機能

・ヘリポートが敷地外にある。

⑤駐車場の分散配置

⑥医療スタッフの労働環境

《医療センターに求められる将来像》

医療センターが担っている役割

①救命救急センター

②高度医療を担う総合診療施設

地域医療支援病院

地域がん診療連携拠点病院

各種がん対応医療機関
(肺がん、肝がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん、子宮体がん)

緩和ケア対応病院

全県(複数圏域)対応型脳卒中連携拠点病院

全県(複数圏域)対応型急性心筋梗塞連携拠点病院

糖尿病専門外来を設置する医療機関

糖尿病専門医と連携して対応する医療機関
(網膜症、神経症状、腎症、壊疽・壊死)

母体搬送ネットワーク連携病院

千葉県小児救命集中治療ネットワーク連携病院

地域小児科センター

③災害拠点病院

DMAT指定医療機関

④臨床研修指定病院

⑤臨床研究病院

継続しながら発展

① 救命救急センターの充実

- ERの拡充（処置ベッド数の増、診療・待合スペースの拡張）
- ICU、HCU、ACU、SCU等の拡充（スーパーICUの算定）
- ドクターカーの継続的な運用
- 重度外傷センターの充実
- 広範囲熱傷等の特殊疾病患者への対応の検討（熱傷センターの検討）

② 高度医療を担う総合診療施設

- 最新治療への対応（低侵襲治療、手術支援ロボット等最新の高度医療機器の整備）
- 手術部門の拡充（手術室、外来手術室の充実、ハイブリッド手術室の整備等）
- 各部門の充実（放射線部門・検査部門の集約配置）
- 診療機能の充実（診療科のセンター化：チーム医療の充実）
 - 心臓血管センター、脳卒中センター、消化器センター、乳房センター、呼吸器センター、腎・泌尿器センター（急性期透析の充実）、糖尿病・代謝センター、小児センター（NICUの開設）等
- 医療機能の拡充（周産期、感染症、精神科病棟の新設等）

<凡例> 【黒】 継続してくもの
【赤】 新たに実施・検討を行うもの
【青】 今後充実を図るもの

③ 地域包括ケアシステムへの対応

- 地域の関係機関との連携
- 在宅患者等の緊急受入病院の支援、救急受入体制の確保

④ 地域医療連携の強化(地域医療連携室の機能充実)

- 病病連携・病診連携、医療・介護連携への対応
- 地域包括ケア病床を有する病院との連携

⑤ 災害拠点病院としての機能の充実

- 災害救急医療への対応
- ヘリポートの敷地内整備

⑥ 臨床研修指定病院の充実

- 専門医制度への対応
- 専門医制度の基幹病院・連携病院としての関係構築

⑦ 経営基盤の強化

- 経営分析の強化（データ集計、分析部門の確立）等

⑧ 患者サービスの向上

- ホスピタリティ(おもてなし)の向上（患者サポートセンターの充実、駐車スペースの確保、アクセスの整備等）

⑨ 医師・看護師等の確保

- 必要な人材を確保できる労働環境の整備（医局の充実、休憩スペースの確保、当直室の増 等）

「建て替えの必要性」及び「増床の必要性」を検討する